

<タイプ1>

- ・偉人の方々は、学校を中退されている人が多いと思った。エニアグラムを行うことで、他人の詳しい性格がわかる。
- ・夏目漱石の生き方がいいなと思った。
- ・友達と競合することで自分を向上させる事
- ・吉田茂の名言「歴史を知らない国民は滅びる」という言葉が気になった。魯迅の「最初に道を作った人が偉大」という言葉にも興味を持った。志賀直哉にも興味を持った。
- ・志賀直哉は武者小路実篤から影響を受けて、自分の人生を大きく変えていることが分かった。自分も偉人から影響を受ける人がいるのかと思った。
- ・私は何をしたいのかを早く見つけたい。
- ・鈴木大拙さんは、高校、大学、全て中退し自分のやりたいことを貫き通した。かっこよく感じた。
- ・鈴木大拙を調べてみたいと思った。
- ・「雨が降った それもいいだろう 本が読める実篤」の言葉が好き。
- ・絶対矛盾的自己同一という西田哲学は良く分からない。
- ・昔の人の画像を見た。すごくおもしろい授業だ。
- ・少し回りがうるさかった。
- ・鈴木大拙とは世界禅学権威で日本の有名な禅宗研究者と思想家です。
- ・鈴木大拙が帝国大学を中退したのがすごい。
- ・周りの人のタイプも調べてみたいと思った。

<タイプ2>

- ・西田幾多郎さんの代表作「善の研究」を読みたい。
- ・鈴木大拙さんの本は一度読んだことがあって、今回の講義で思い出した。
- ・鈴木大拙さんの行動や思いが世論調査の結果を生んでいると思う。
- ・歴史を知るとは重要だと思った。夏目漱石のことをもっと知りたい。鈴木大拙は知らなかった。
- ・芥川龍之介があんなに活発な人とは思わなかった。鈴木大拙は優れた教育者だということがわかった。
- ・鈴木大拙さんの生き方は尊敬するところも多く、自分にも活かそうと感じた。
- ・当たっていてエニアグラムはすごいと思った。
- 西田幾多郎の「無の哲学」の「哲学は自己を否定すること、自分を忘れることを学ぶのである」という言葉は社会に出る上で私にも必要だと思った。
- ・地域活動系のゼミに所属している私にあてはまっていると感じた。
- ・偉大な人の学歴を見てみると、高学歴というわけでもないことに驚いた。自由な生き様であることに気が付いた。自分の直感を信じること。
- ・鈴木先生が亡くなる2年前の映像を見た。
- ・志賀直哉のストイックな姿勢に感服した。
- ・鈴木大拙の「年をとらないと分からない事がたくさんある」という言葉に惹かれた。
- ・有限の裏に無限があるという言葉が非常に深いと感じた。

<タイプ3>

- ・西田幾多郎さんの「世界を見ようとする時、世界もこちらを見ている。井戸をのぞくと、井戸もこちらを見ている」という言葉が一番心に残った。
- ・鈴木大拙「お前は学問をやれ、俺は金儲けをしてお前を食わしてやる」という言葉から人情に厚い男だと感じた。
- ・志賀直哉さんは小説家で代表作も多い。夏目漱石は「大学に就職学」という講座を設けてはどうかと提案した事が分かった。
- ・エニアグラムがすごいと感じた。
- ・地上に道はない。皆が歩くから道はできるんだ。
- ・鈴木大拙の話が印象的だった。
- ・エニアグラムを作ったのが古代イスラムの時代からあったのが驚いた。魯迅さんの人の道は人が歩いたから道になると言っていた言葉がすごく心に響いた。

<タイプ4>

- ・西田幾多郎は好きな人物で昔から知っている。「個人というものをのぞいては、何にも創造できないんだから...」という言葉は、当時高校生ながらも心に残った名言だった。
- ・正岡子規が存在していなければ、日本に野球は来なかったかもしれないですね。芥川龍之介は以外と好奇心旺盛だったのかと思った。
- ・夏目漱石さんの職業観は苦痛を快楽に変えるには職業に熱心に励むことでその職業が道楽の方向にいき、職業の中で徐々に増やしていく。こんな仕事をやりたいと思った。職業に熱心になれば仕事の中から楽しむものが見つかります。
- ・夏目漱石の「道楽と職業」と題した講演録が一番印象に残った。漱石は「専門」という理解を認めている。人より倍努力した分野だからもらった報酬は自分のスキルになる。
- ・西田幾多郎「世界を見ようとする時、世界もこちらを見えています」「窓の外には世界が広がり、窓の内にはそれを見て考えている私があります」
- ・自分の生き方が変わりそうな気がしました。
- ・鈴木大拙の科学に対する見解が印象に残った。
- ・道楽と職業の内容に興味を持った。道楽を職業にすると苦しくて嫌になってしまう。に共感した。

<タイプ5>

- ・「一即多」という表現が非常に気に入った。
- ・武者小路実篤記念館は仙川にあり近いので、是非足を運んで見に行きたいと思った。
- ・西田幾多郎「人は人、吾は吾なり、とにかく、吾行く道を 吾は行くなり」気に入った言葉が多く、素晴らしい言葉も多くて、感心の連続だった。
- ・「道楽は快樂をもたらすが、同じことをしているようにみえても職業となれば苦痛を伴うことになる」
- ・偉人の友達もまた偉人だということにびっくりする。何かあるのだろうか？
- ・武者小路実篤の「人生は楽ではない、そこが面白いとしておく」という言葉に感銘を受けた。
- ・鈴木大拙の「年をとらないと分からない事がたくさんある」と言う言葉に関心を持った。将来に希望が持てる気がした。
- ・これまであまり意識をしていなかった歴史の重要性に気が付いた。
- ・エニアグラムの又新しい事を知った。
- ・夏目漱石と正岡子規は仲が良かったのは知っていたが、実際のやり取りを聞くことができて面白かった。
- ・エニアグラムで自分や他人の人格を推し量ったところで、あまり意識し過ぎると悪い影響にも分かるのでは？
- ・正岡子規や夏目漱石のエピソードは知らないことがかりで、面白かった。
- ・昔の偉人の映像を見ることは滅多にないので貴重だと思った。映像を見るとどんな人だったのか少し分かる気がする。野球の名付け親となったのが正岡子規なので、凄い人だと思った。
- ・限られたものを感じる事が正しい無限だという言葉に興味を持った。早く尊敬できる人を見つけないと思った。
- ・鈴木大拙「無限に関心を持つということが宗教」自分にはない考えなので素晴らしいものだと思った。

<タイプ6>

- ・西田幾多郎さんの事を始めて知り、彼の哲学に魅力を感じた。特に言葉に一番感心した。
- ・鈴木大拙という人の像や人となり感化され、私も似たような人間仕事などに対し、常に尽力できればと思った。
- ・西田幾多郎さんの「世を離れ、人を忘れて、吾はただ己が心の奥底に済む」心の中の感情を感じた。
- ・偉人の名言は自分の体験から来ているので、非常にためになった。
- ・正岡子規が野球の名付け親だと初めて知った。
- ・もっとたくさんの人々の生き方考え方を知りたいと思った。
- ・鈴木大拙の考える宗教は興味を持ち関心を向けることが宗教だと言っているが、私には良く分からない。
- ・偉人の方々が動いている姿を始めて見た。
- ・授業の面白さが出てきて楽しみ。歴史というものは面白いものだと感じた。
- ・正岡子規がベースボールを野球と名付けたことを知らなかった。武者小路実篤の「人生は楽ではない そこが面白いとしておく」とあるが、確かに人生は苦あり谷ありである。しかしそれゆえに楽ありの部分に際立って楽しく感じる。友とは大切な存在であり、ライバルでもある。
- ・鈴木大拙さんの名言から、一生懸命に何かに興じる人は偉い人と感じた。

<タイプ7>

- ・文化や日本のことを知ってもらいたいと思った。そのためには日本を歩いて色々なことをみたいと思った。
- ・正岡子規は、ブログの親ともいえると聞き感動した。漱石のキャリアに関する科目を作ろうと思ったことはまるで多摩大学だと思った。
- ・小説家はどんなエニアグラムなのか。
- ・自由時間の使い方はその通りだと思った。
- ・タイプ7は色々な経験を求め、それに向かって準備していくことがとても好きだと思った。
- ・志賀直哉さんの書いた小説を読みたいと思った。
- ・「地上に道は無い、皆が歩くから道はできるんだ」という名言が心に残りました。
- ・石ノ森。墨汁一滴はとても興味深い。

<タイプ8>

- ・早く尊敬できる人や見本とした人を探さないといけないと思う。
- ・鈴木大拙は学歴が全て中退で最終学歴が中卒であると言うことに驚いた。大学生が事件を起こすことが多いので学歴に左右されない鈴木大拙のような人がどんどん出てきて学歴偏差値で決める社会を壊して欲しい。
- ・鈴木大拙のような考えを持ちたい。
- ・鲁迅をやった。色々な授業でつながりがあって面白いと思った。
- ・過去の偉人達の考え方を知るのはとても有意義だった。
- ・今日は静かで授業が聞きやすかった。
- ・武者小路実篤「人生は楽ではない、そこが面白いとしておく」と言う言葉がとても印象的だった。
- ・エニアグラムをもっと円滑にし、人とのコミュニケーションにつなげたい。

<タイプ9>

- ・西田幾多郎という人の、自分を無にする方法を哲学のテーマとしたポイントが気に入った。
  - ・今日の講義は静かに聞いて良かった。自分の人生のモデルを早く見つけたいと思った。
  - ・鈴木大拙が世界に現存する最古の哲学者と言われていることを初めて聞き興味を持った。
  - ・西田幾多郎の「人は人、吾は吾なり」とにかく 吾行く道を吾は行くなり」という言葉がかっこいいなと思った。
  - ・芥川龍之介に興味湧いた。生前最後の木登りの動画などお茶目な印象と文豪という印象が相反するものであったため(羅生門とのギャップ)さらに面白く感じた。
  - ・芥川龍之介に興味わいた。私から見れば鬱病だったのでは?と思うほどだが、彼の書く本には謎が多い魅力的な本が多く、彼の影響を受けた人間は日本含む全世界に大勢いる。
  - ・日本の偉人の言葉には重みがあると思った。
  - ・ベイブルース・ルーゲーリック、ジミーフォックス、コミーマックの当時の映像はとても貴重だと思う。
  - ・友がいることで切磋琢磨することができる。
  - ・漱石のキャリアが、職業学というものを教えて、その延長だったということを知った。
  - ・鈴木大拙さんがすばらしいと思った。
  - ・歴史上の偉人の映像が残っているのに驚いた。
  - ・西田幾多郎に興味を持った。
  - ・西田幾多郎の「個人というものをのぞいては、何にも創造はできないんだから」という言葉にすごく深い意味を感じた。
  - ・文豪の話を書く機会は多くないから良い話を聞いた。
  - ・漱石の道楽と職業についての考えかたに成る程と思った。
- 仕事というのは何でも苦痛をとまなうものなのだという事を知っているか知らないかで心持ちは随分変わる気がした。
- ・夏目漱石の、楽しかった道楽が好きなることを職業にすることによって一気に苦しくなる。苦に変わるといことが、一番心に残った。
  - ・志賀直哉は頑固なイメージだったが、動画を見て物腰が柔らかそうな人でびっくりした。夏目漱石が職業に悩んでいたことに驚いた。正岡子規がベースボール(野球)の名付け親だと知り、驚いた。
  - ・自分も未来の子ども達に紹介されるくらいの偉人になりたいと思った。動画を取り入れることでとても分かりやすく理解することができた。
  - ・鈴木大拙が、最終学歴が中卒で驚いた。

<タイプ?>

- ・正岡子規が「野球」という言葉を作った本人だと知り、びっくりした。ずっと気になっていた。
- ・限られたものを感じる。有限の中において感じる事が出来ないなら、その裏に無限がある。この言葉はとても深いものを感じた。
- ・この授業が終わると、今週も終わるんだなと思うようになった。
- ・鈴木大拙の名言を聞き、仕事に対して、驚くほどに紳士に向き合い、生涯現役を貫いている人物であった。また、名言も多く、仕事に対して前向きになれる様な、名言も感じられることができた。
- ・教科書に載っていた人ばかりの映像を見るのは初めてでした。
- ・鈴木大拙さんはとても尊敬できる人だと思った。
- ・有名な人たちの動画があるとは思いませんでした。有名な人たちの顔などは写真or絵などでしか見たことがなかった。
- ・正岡子規は難病にかかっているにもかかわらず、死ぬまで句を書き続ける所がすごいと思った。
- ・お互いに高め合うことのできる友人と巡り合うことが、人生においてとても重大な意義であるように感じた。夏目漱石が正岡子規に宛てたメッセージが最も印象に残った。
- ・西田幾多郎、自分でよく調べてもっと知りたくなった。
- ・夏目漱石の過去を見て興味を持った。
- ・偉人達を分析してエニアグラムにあてはめてみると面白そうだなと思った。
- ・正岡子規の文章力は日本の宝だと思った。途中で動画を流してもらえるのは分かりやすい。
- ・図書館に行ってもう少し西田幾多郎について調べようと思った。
- ・先人の人の教えは凄いなと思った。
- ・昔の偉人達が一つ一つ活躍しながら行動しているのが凄い。世界中の哲学者のナンバー・ワンが日本人だと知って凄いなと思った。

- ・鈴木大拙について学んだ。人生は何があるのか分からないし、世の中学歴だけが全てだということではないと思った。
- ・武者小路実篤さんの、人生は楽ではない、そこが面白い、としておくという言葉が好き。エニアグラムはいつも当たっていて驚かされる。
- ・もう少し自分の考えを持ちたい。
- ・年をとらないと分からない事がある→とても共感できる。人生はスタートして人のマネをすることで深さを知り、型ができる。そこから派生する、守破離というのは何のことでもいえる。まだまだ偉人を知らない。たくさん学んで自分の参考にしていきたい。
- ・鈴木大拙の人柄について知れた。聞くにつれ興味が湧いた。
- ・正岡子規が野球と名付けたのが意外だった。